藤井達吉コレクション

FT434《絵巻「つくし松原」》、 ` FT435《絵巻「もくれん」》読み下し

凡例

・本稿は、愛知県美術館が所蔵する藤井達吉コレクションFT434《絵巻「つくし松原」》およびFT435《絵巻「もくれん」》に含まれる

藤井達吉自筆のテキスト部分を読み下したものである。

読み下しは、愛知県美術館友の会所蔵品管理サポート部会有志の協力を得て行われた。

読み下しに携わった者は左記の通りである。(五十音順、敬称略

丹阿弥彰子

大石悦子

松岡千佳

岡崎恭子

寺本いつ子

荻野孝

冨永晃一

加藤喜美代

平松章子

武藤和子 村尾哲

を掲載した。 読み下しの文中において使用した記号の意味は下記の通り。

・構成は、上段に絵巻図版を配し、下段にくずし字の読み下し文、その下にかっこ書きで現代仮名遣い文をそえた。また、

各巻末に絵巻全図

○:文字は認識できるが解読できなかった文字

編集 高木久子

FT434《絵巻「つくし松原」》、FT435《絵巻「もくれん」》の基礎調査は愛知県美術館の平瀬礼太、中野悠が行い、高木久子が調査補助を行っ

た。

藤井達吉のテキストを読み下すにあたり、多大なご協力を賜りました愛知県美術館友の会所蔵品管理サポート部会有志の皆様および宮城県美術

館の土生和彦氏に、心から御礼申し上げます。

FT434《絵巻「つくし松原」》



気布も堂悲春留(今日も旅する) 大都羅駕太(松浦潟) い久の万川波羅(虹の松原) はしの末りはる山) にしの末川波羅(虹の松原) にものまりは最(領巾振る山) におる という がっぱん いくの がらい にんしん いんの がらい にん いんの がっぱん いん はい にん はい はい にん はい にん

悲礼布流(領巾振る)遊布散連婆(夕されば)

由布可春牟(夕霞む) や末裳(山も)

萬都 (松) がしの (虹の) 波良 (原)

閑勢於さ (風収)

末都羅駕堂(松浦潟) 末李努(まりぬ)

さわ駕春 (騒がず) 奈美も (波も)

於東も奈し (音も無し) 恵堂も(枝も)

奈良さ須(鳴らさず)

萬川婆羅の (松原の)

有へ尓(上に)

ひ連布類(領巾振る) 閑春め流(かすめる)

や万能か春○尓(山のかす○に) 夕日 (夕日)

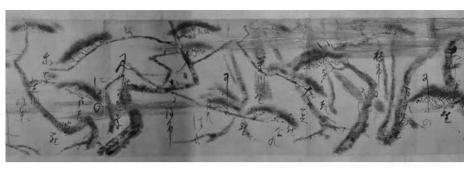
や末 (山)

か駕や久(輝く)

あ万李尓も (余りにも) し須か(静か)

春岐堂李(すぎたり)

堂知轉(立ちて)
変万遍尓(浜辺に)
が駕や久(輝く)



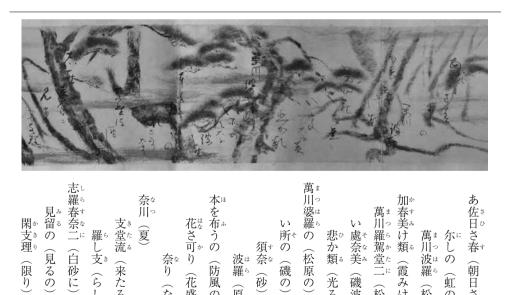
尓ち (虹) 堂川 (立つ) 許東し (ごとし)

見能可き李(見の限り)

か駕餘布(耀う)

万都婆羅(松原)に志の(虹の)

夕日 (夕日) 末川羅駕堂(松浦潟) い所をう都(磯を打つ) 萬川羅駕堂(松浦潟) 尓しの(虹の) 遊布日(夕日) 尔しの (虹の) 奈美 (波) うけ天(受けて) 万都婆羅(松原) 万都 (松) あ羅(あら) は良 (原) な九(なく)



い所の(磯の)

須奈 (砂)

波羅(原)

本を布うの(防風の)

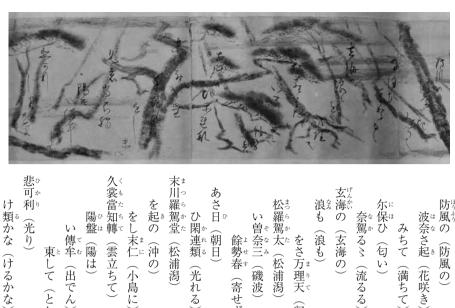
花さ可り(花盛り)

奈り(なり)

奈川 (夏) 支堂流(来たる) 羅し支(らしき)

志羅春奈二 (白砂に) 見留の(見るの) 閑支理 (限り)

加春美け類(霞みける) あ佐日さ春 (朝日さす) 萬川羅駕堂二(松浦潟に) い處奈美(磯波) 悲か類(光る) 尓しの(虹の) 萬川波羅 (松原)



末川羅駕堂(松浦潟)まっらかた

を起の(沖の)

をし末仁(小島に)

ひ**閑連類** (光れる) あさ日 (朝日)

餘勢春 (寄せず)

悲可利 (光り)

け類かな(けるかな) 東して (として)

い傳牟(出でん)

波奈さ起(花咲き)
波奈さ起(花咲き)

みちて(満ちて)

玄海の (玄海の) 奈駕るき(流るる) なか なか(匂い)

浪も (浪も) をさ万理天(収まりて)

松羅駕太(松浦潟) い曽奈三(磯波)

可駕見や末の(鏡山の)

む春め (娘)

美祢の(峰の)

をひ (老) 末川(松)

能起許東に(軒毎に) も能駕當り可難(物語かな) さよの(佐用の 奈尓を(何を) か堂連○(語れ○) ひ礼布留(領巾振る)

於許し(おこし) 加含美無羅の(鏡村の) 川久礼流(作れる)

鏡村の(鏡村の)

むすめ (娘) 於己しや能(おこし屋の)

をこし(おこし)

お許し(おこし) 万ろめる (丸める) を許しやの(おこし屋の) 都久類(作る)

004 (36)



末川波羅の(松原の)

おこし (おこし)

の起許東尔(軒毎に) う万しも (うましも)

を東 (音)

都九李由久(作りゆく) おもしろ久(面白く)

奈流 (なる)

ひ東の世の (人の世の) ちやの美川(茶飲みつ) 於許しや二(おこし屋に) 堂悲をし(旅をし) おこし(おこし) 東布へ都(食べつ) おも布(思う)

万都う都しも(松写しも) 堂飛 (旅) し曽 (しぞ) おも (思) 布ふ(う)

東布へ(食べ)

万都に(松に)まっぱ。 か 川 母 (掛 け)

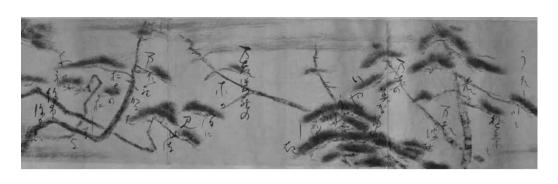
川ミ遊九(つつ行く)う都し(写し) あは奈久(会わなく)

悲東も(人も)

於こし (おこし) 東布遍(食べ)

む春めい東し母(娘愛しも)

万都(松)



万都婆羅の(松原の)

木の間に(木の間に)

見由流(見ゆる)

和れ (吾) 於し萬与(小島よ)

万都羅駕た(松浦潟) 於支の (沖の)

餘布(呼ぶ) 許東志 (ごとし)

う都し川も(写しつも) 万都の春駕當の(松の姿の) 都き須(尽きず) 遊気と(行けど) 万都 (松) う川久し起(美しき) 波羅の(原の)

万川者羅尔(松原に)まっょらに

き曽(きぞ)

い 連 波 (入れば) な (深々)

起可末(聞かま)

の (の)

本し (ほし)

堂さ尓(ただに) か 東者 (人は)

閑多礼類 (語れる) 萬つ(松) 可勢 (風) の (の)

許登志 (ごとし)

布轉登め天(筆止めて) 奈駕め川 (眺めつつ) を支の(沖の) 無かし(昔) 小し万を(小島を) 閑堂 (語りの) 李ゥ (り)



おも布(思う)

都久しの當飛と(筑紫の旅と)

おも布(思う)

よし (由) 奈之 (なし)

許の末さ尓 (このままに)

い久世も(幾世も) あ李 (在り)

堂起 (たき)

許く遅勢理(心地せり)

世奈類か(世なるか) 世奈類か(世なるか)

要の世(夢の世) なり (なり) け理 (けり)

部本(筑) おります。 (気) おりない (気) おりない (気) しちの(紫路の) 堂ひ (旅)

ひ登の世能(人の世の)

た悲(旅)

末川可勢を(松風を)

起る川く(聞きつつ)

ひ東利 (一人)

万都 (松)

波羅尓(原に)

い祢連波(寝れば)

和連 (吾)

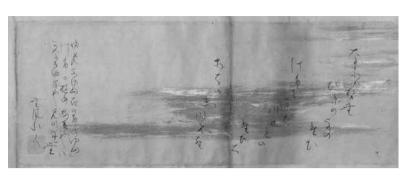
の美(のみ)

と曽(とぞ)

都久之(筑紫) お久之(筑紫) を盤須(思わず) も盤須(思わず)

ひ東の世な留か (人の世なるか)許礼の世可 (これの世か)

007 (33)



禁いかきも ひ東の与の(人の世の) は布も(今日も) 方た(また) 万た(また) っべしの(筑紫の) 並び、旅)

末川者羅(松原) ホちの(虹の)



都九し萬都波羅(つくし松原)。 ないまっ はら



つくし松原(つくし松原)

達

可奈る由面や見川羅無(かなる夢や見つらん)け布の遊め あ春やい(今日の夢 明日やい)

無風山人(無風山人)

由免与由め起の布のゆめ二(夢よ夢昨日の夢に)







卷頭

FT435 《絵巻「もくれん」》



お理(おり)

以萬散良二(今更に) 迦な之面抒(悲しめど) 於の駕(己が) を呂閑を(愚かを)

な須(なす) 与し毛 (由も) 那志 (なし)

散美 (淋) 老ひ老ひ天(老い老いて) おの駕(己が) を呂かの(愚かの)

等領(なす) 春倍毛(すべも)

し散能(しさの)

堂々尓(ただに)

な久(なく)

堂ち(立ち)

な尓 (何)

毛川倍志(持つべし)布傳を(筆を)

万都志起(拙しき)遊へ丹(故に) 繪な所東(絵なぞと)

へ可羅須(べからず)

おも布(思う)

波奈の(花の) 遅類 (散る)

い万佐羅(今更)

於の連を(己を) $\frac{1}{2} = \frac{1}{2} = \frac{1}$

志川尓 (静に) 恵川尓 (静に)

あ礼(あれ)

餘^ょ (よ)

あ万りに(余りに)

羅無(らん)



以久留天布(生くるちょう) 伊乃遅(命) けのま (一日一日に) ^注 可久 (描く) へ志 (べし) か堂ちけ(かたじけ) い布 (言う) 堂萬(賜) り (い) 特で(い) なさ二 (なさに) さし (しゃ)



久餘布 (供養)

かへ梨来ぬ(帰り来ぬ)

之轉(して)

波羅か羅能(同胞の)

おも非(思い) な尓あ留(何ある) を久許東(おくこと)

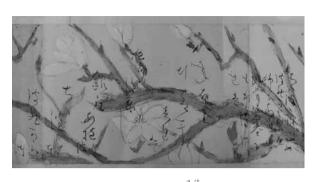
へし (べし) 也(や)

閑九類天布 (描くるちょう) な尓遊へ尓 (何故に) 都堂な起 (拙き) おも布(思う) で で で で (べ) で う い ら) 繪を處(絵をぞ) 須⁺ (ず)

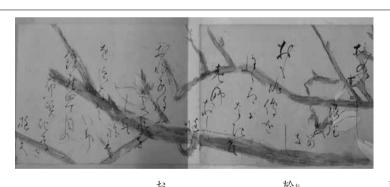
な尓(何)

か起 (描き)

011 (29)



波羅可ら東(同胞と)ち、波、東(父母と)



處礼を (それを) お非あ祢盤 (老姉は)

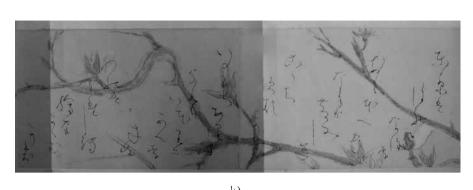
を須な登(押すなと)が盤(ねば)

し羅(知ら)

銀座(銀座)

あ留(歩)

し 支^き (し) (き)



与九も (よくも) あ里轉(ありて)

い本里二(庵に)

和礼盤(吾は) 可へ李(帰り) 来ぬ(来ぬ)

も堂し轉(黙して)

繪な (絵な) 可ゝむ (描かん) 可裳 (かも)

いのち (命)

須類 (する) 可裳 (かも)

古、ち (心地)

堂礼もあ王須(誰も会わず) な九二(なくに)

非東りも堂して(一人黙して)

繪な(絵な)

可、む(描かん)

可母 (かも)

東京盤(東京は)

許礼を(これを)

おも本へ盤(思おえば)な許李(名残)

な尓か(何か)

散みし幾(淋しき)

七三春日(七三春日) 達吉(達吉)

布傳の(筆の) 末二萬二(まにまに)



も久れん(もくれん)

与支あし支(良き悪しき)

わ連 (吾) し羅(知ら)





卷頭